

**2020年度
第1四半期**

2020年7月30日

FUJITSU

shaping tomorrow with you

決算概要

富士通株式会社

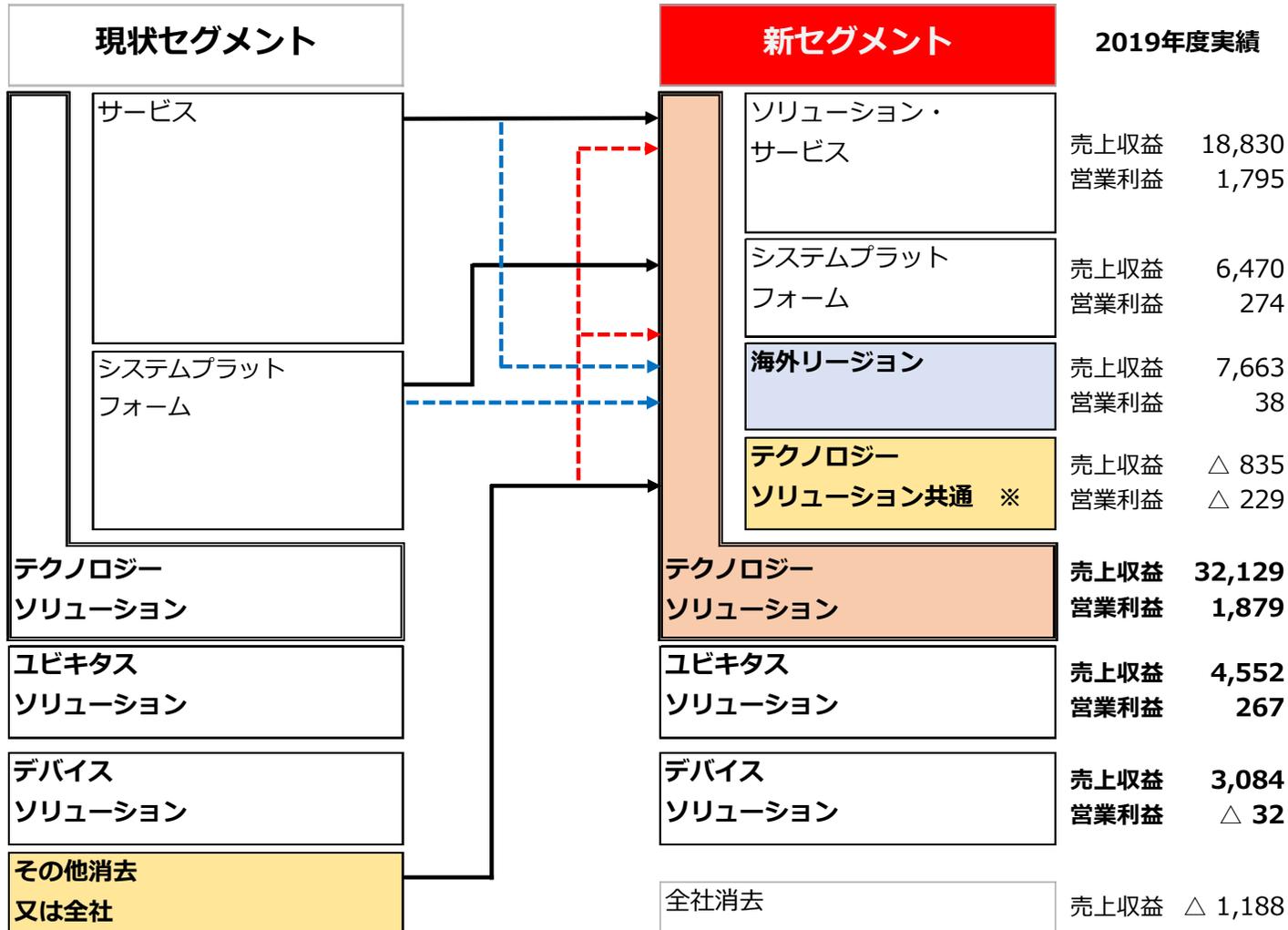
本日のご説明内容



1. 2020年度第1四半期 連結業績概要
2. 2020年度 連結業績予想
3. キャピタルアロケーションポリシー

1. 2020年度第1四半期 連結業績概要

事業セグメント区分の変更



● 中期経営目標 <2022年度>
テクノロジーソリューション
売上収益 35,000億
営業利益率 10%

※ テクノロジーソリューション共通の費用内訳
 ・ 研究所…先行基礎研究費用
 ・ オリンピック/パラリンピック関連費用他
 ・ 連結調整に係る損益

1.2020年度第1四半期
連結業績概要

連結 P L



(単位：億円)

	2019年度1Q (実績)	2020年度1Q (実績)	前年同期比	増減率(%)	コロナ 影響
売上収益	8,387	8,027	△359	△4.3	△358
営業利益 (営業利益率)	33 (0.4%)	222 (2.8%)	188 (2.4%)	558.0	△121
金融損益等	28	36	8	27.8	
税引前四半期利益	62	259	196	314.4	
四半期利益(親会社所有者帰属)	70	181	110	156.2	

為替レート

米ドル/円	110	108	△2	△1.8
ユーロ/円	123	118	△5	△4.1
英ポンド/円	141	134	△7	△5.0
ユーロ/米ドル	1.12	1.10	△0.02	△1.8

売上収益

- ・コロナ影響除く + 143億 … システムプラットフォームの増収が、ユビキタスの前年特需の反動減を上回り増収
- ・コロナ影響 △ 358億 … テクノロジーソリューション中心に影響が生じる
- ・再編影響 △ 143億 … デバイス事業の再編により連結対象外となった売上

営業利益 + 188億の増益

- ・本業 + 123億 … コロナ影響を受けるも、採算性改善、費用の効率化が進む
- ・再編影響 + 4億 … デバイス事業の再編により連結対象外となった利益
- ・特殊事項 + 60億 … 前年のデバイス事業の再編費用の負担がなくなった影響

金融損益等 + 8億の増益 … 前年並みの水準

当期利益 +110億の増益

1.2020年度第1四半期
連結業績概要

連結業績概要



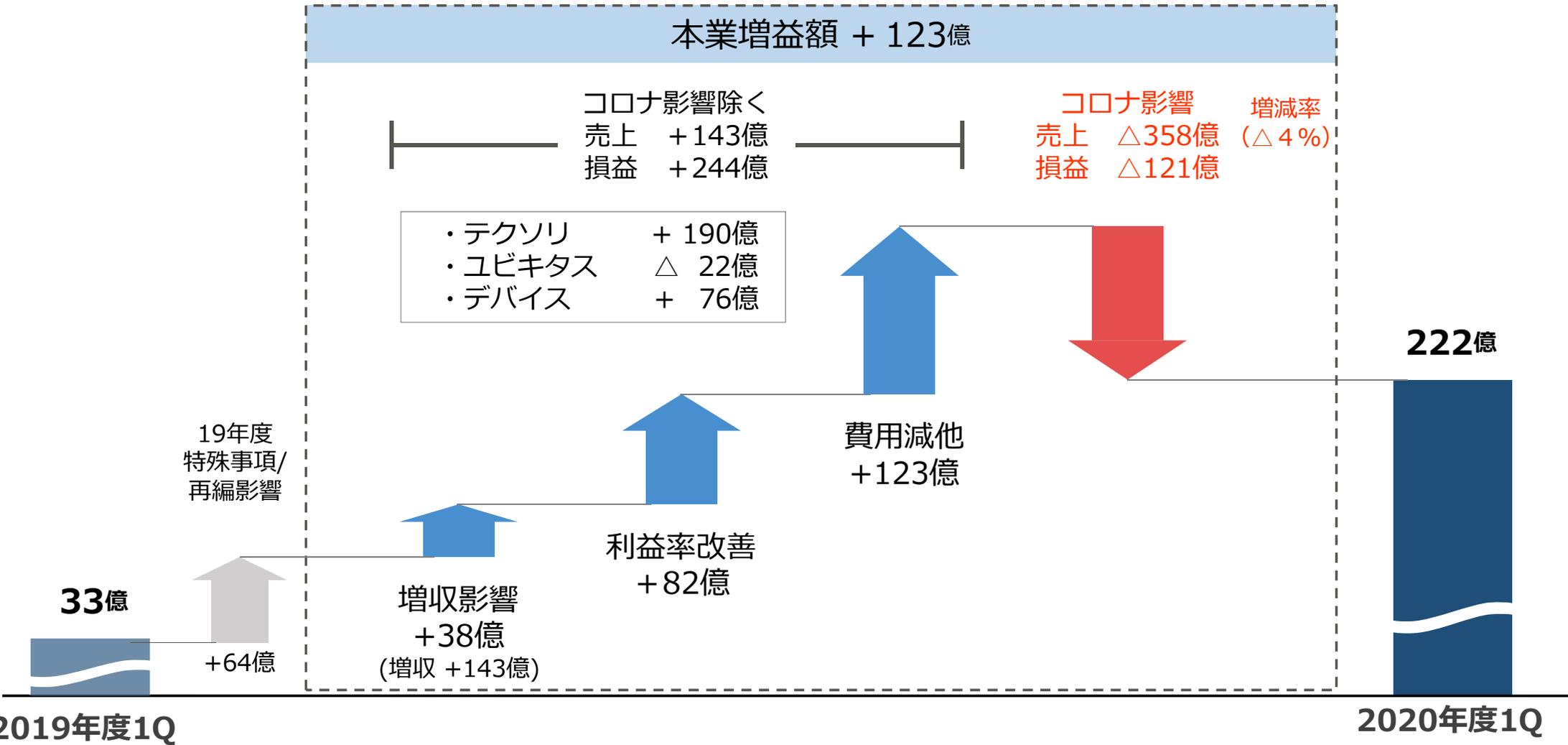
(単位：億円)

		2019年度 1Q (実績)	2020年度 1Q (実績)	前年 同期比	増減率 (%)	コロナ 影響
本業	売上収益	8,243	8,027	△215	△2.6	△358
	営業利益	98	222	123	125.5	△121
	(営業利益率)	(1.2%)	(2.8%)	(1.6%)		
再編ビジネス *1	売上収益	143	-	△143	-	
	営業利益	△4	-	4	-	
特殊事項 *2	売上収益	-	-	-	-	
	営業利益	△60	-	60	-	
連結計	売上収益	8,387	8,027	△359	△4.3	△358
	営業利益	33	222	188	558.0	△121
	(営業利益率)	(0.4%)	(2.8%)	(2.4%)		

*1 再編により連結対象外となった事業の売上/損益 19年3Q：半導体三重工場の再編

*2 ビジネスモデル変革費用等の一時の利益又は損失

営業利益の前年比の変動内訳 (2019年度1Q→2020年度1Q)



1.2020年度第1四半期
連結業績概要

売上収益の状況



売上前年比内訳 コロナ影響除く：増収要因：システムプラットフォーム（スーパーコンピューター富岳、5G基地局）

減収要因：ユビキタス、前年特需の反動減

コロナ影響：テクノロジーソリューション中心に減収影響を受ける

(単位：億円)

	2020年度 1Q(実績)	前年同期比
連結売上(本業)	8,027	△ 215
テクノロジーソリューション	6,791	19
ソリューション・サービス	3,768	△ 119
システムプラットフォーム	1,517	294
海外リージョン	1,710	△ 152
共通	△ 205	△ 2
ユビキタスソリューション	738	△ 290
デバイスソリューション	683	△ 6
全社消去	△ 185	61

前年同期比の内訳
コロナ影響除く コロナ影響

143	△ 358
396	△ 376
71	△ 190
427	△ 133
△ 116	△ 36
13	△ 16
△ 334	43
19	△ 26
61	-

受注の状況



国内の受注(単独)の状況

	2019年度(実績)					2020年度 1Q(実績)
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	
単独計 (PCの受注を除く)	115% (110%)	122% (122%)	98% (93%)	100% (99%)	109% (106%)	91% (97%)
エンタープライズ (産業・流通)	108%	113%	103%	104%	107%	93%
ファイナンス&リテール (金融・小売)	106%	131%	93%	94%	105%	89%
J A P A N (地方自治体・ヘルスケア 他)	132%	118%	100%	78%	108%	79%
公共・社会インフラ (官公庁・社会基盤)	109%	86%	94%	111%	100%	109%
その他	128%	290%	115%	108%	152%	77%

■ 新型コロナウイルスの影響 : 売上 △ 358億 / 損益 △ 121億

- ・ 新型コロナウイルスの影響は、売上/売上総利益に対する影響のみ
- ・ 営業費用については、テレワークを推進していた経緯もあり、通常増減との切り分けが困難なため含めておりません

● マイナス影響 : 売上 △ 655億 / 損益 △ 220億

・ プロジェクトの実施時期見直し

- 日本 : 製造、流通、ヘルスケア向けで大きな影響
- 海外 : 厳格なロックダウンの影響を大きく受ける

・ 商談活動の停滞

- 中堅、小規模なお客様に対する商談活動が停滞

・ サプライチェーンの影響は軽微

- 4月以降回復に向かい、ほぼ正常化

● プラス影響 : 売上 296億 / 損益 99億

・ 新たなデマンドへの対応

- テレワーク等のリモート関連のPC/インフラ増設
- コールセンター効率化、自動化に向けたソリューション

・ 前年4Qの延伸については挽回

1.2020年度第1四半期
連結業績概要

事業別セグメント情報



(単位：億円)

	2019年度		2020年度		前年 同期比	本業	特殊/再編	コロナ 影響
	1Q (実績)	特殊/再編	1Q (実績)	特殊/再編				
売上 収益	テクノロジーソリューション	6,771	-	6,791	-	19	-	△376
	ユビキタスソリューション	1,029	-	738	-	△290	-	43
	デバイスソリューション	834	143	683	-	△150	△143	△26
	全社消去	△247	-	△185	-	61	-	-
	連結計	8,387	143	8,027	-	△359	△143	△358
営業 利益	テクノロジーソリューション	75	-	126	-	50	-	△139
	ユビキタスソリューション	35	-	42	-	6	-	28
	デバイスソリューション	△77	△64	53	-	131	64	△10
	連結計	33	△64	222	-	188	64	△121

テクノロジーソリューション

(単位：億円)

テクノロジーソリューション	2019年度	2020年度	前年同期比	
	1Q (実績)	1Q (実績)		増減率(%)
売上収益	6,771	6,791	[△376] 19	0.3
営業利益 (営業利益率)	75 (1.1%)	126 (1.9%)	[△139] 50 (0.8%)	66.8

■ 前年同期比

■ 売上収益… 前年から若干の増収

システムプロダクトが伸長したものの、コロナの影響により、前年から若干の増収

■ 営業利益…50億の増益

採算性の改善に加え、営業費用の効率化を進め増益

売上収益(国内海外内訳)		[]内は新型コロナウイルスの影響		
国内	4,568	4,827	258	5.7
海外	2,202	1,964	△238	△10.8

**テクノロジーソリューション
(ソリューション・サービス)**

(単位：億円)

ソリューション・サービス	2019年度	2020年度	前年同期比		増減率(%)
	1Q (実績)	1Q (実績)			
売上収益	3,887	3,768	[△190]	△119	△3.1
営業利益	180	178	[△75]	△2	△1.5
(営業利益率)	(4.6%)	(4.7%)	(0.1%)		

[]内は新型コロナウイルスの影響

前年同期比

■ 売上収益

公共分野の増はあるものの、製造、流通、ヘルスケア中心にコロナ影響を大きく受け、前年から減収

■ 営業利益

減収影響はあるものの、ソフトウェア増による採算性の改善、営業費用の効率化が進み、前年並みの利益を確保

テクノロジーソリューション
(システムプラットフォーム)

(単位：億円)

システム プラットフォーム	2019年度 1Q (実績)	2020年度 1Q (実績)	前年同期比		増減率(%)
売上収益	1,223	1,517	[△133]	294	24.0
システム プロダクト	841	1,059	[△98]	217	25.9
ネットワーク プロダクト	381	458	[△34]	76	20.0
営業利益	△64	50	[△46]	115	-
(営業利益率)	(△5.3%)	(3.3%)		(8.6%)	

売上収益(国内海外内訳) []内は新型コロナウイルスの影響

国内	935	1,280	344	36.9
海外	287	237	△50	△17.7

■ 前年同期比

■ 売上収益

(システムプロダクト)

メインフレームの商談増加、スーパーコンピュータ
富岳の出荷により増収。

(ネットワークプロダクト)

5G基地局の所要増加。

■ 営業利益

システムプロダクト、ネットワーク共に増益。
増収効果、プロダクトミックスの好転に加え、
営業費用の効率化により増。

**テクノロジーソリューション
(海外リージョン)**

(単位：億円)

海外リージョン	2019年度	2020年度	前年同期比	
	1Q (実績)	1Q (実績)	増減率(%)	
売上収益	1,862	1,710	[△36] △152	△8.2
営業利益	△5	△37	[△8] △32	-
(営業利益率)	(△0.3%)	(△2.2%)	(△1.9%)	

[]内は新型コロナウイルスの影響

前年同期比

売上収益

欧州・アジアを中心としたコロナ影響、ユーロ、ポンドが前年から円高に推移した影響に加え、欧州の不採算国、北米プロダクトビジネスからの撤退影響により減収

営業利益

減収影響を中心に減益

ユビキタスソリューション

(単位：億円)

ユビキタス ソリューション	2019年度	2020年度	前年同期比	
	1Q (実績)	1Q (実績)		増減率(%)
売上収益	1,029	738	[43] △290	△28.2
営業利益 (営業利益率)	35 (3.5%)	42 (5.7%)	[28] 6 (2.2%)	18.1

売上収益(国内海外内訳) []内は新型コロナウイルスの影響

	2019年度	2020年度	前年同期比	
	1Q	1Q		増減率(%)
国内	664	470	△194	△29.2
海外	364	268	△96	△26.4

■ 前年同期比

■ 売上収益

前年度Windows7の買替特需の反動を受け減収

■ 営業利益

減収影響はあるものの、ハイスペック品の割合増加に加え、販売価格維持による採算性改善により増益

デバイスソリューション

(単位：億円)

デバイス ソリューション	2019年度	2020年度	前年同期比	
	1Q (実績)	1Q (実績)		増減率(%)
売上収益	834	683	[△26] △150	△18.1
営業利益	△77	53	[△10] 131	-
(営業利益率)	(△9.3%)	(7.9%)	(17.2%)	

売上収益(国内海外内訳) []内は新型コロナウイルスの影響

	2019年度	2020年度	前年同期比	
	1Q	1Q		増減率(%)
国内	331	166	△165	△49.8
海外	502	516	14	2.9

前年同期比

■ 売上収益

事業再編の影響 △143億

2019年3Qから半導体三重工場が連結対象外へ。
上記影響を除くと、前年並み。

■ 営業利益

本業は、66億の増益

採算性の高い電子部品の所要増加により改善

ビジネスモデル変革費用他の影響 +64億

2019年1Q、ビジネスモデル変革費用負担減 60億

事業再編で連結対象外となった利益 4億

キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	2019年度 1Q (実績)	2020年度 1Q (実績)	前年同期比
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,163	1,488	325
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△107	△100	7
I + II フリー・キャッシュ・フロー	1,056	1,388	332
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△554	△238	315
IV 現金及び現金同等物の四半期末残高	4,665	5,696	1,031

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
 - ・ 本業の利益の増加に加え、棚卸資産の圧縮が進み大きく好転。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
 - ・ 国内サービスを中心に前年と同水準の投資

資産、負債、資本の状況

(単位：億円)

	2019年度末 (実績)	2020年度1Q末 (実績)	前年度末比
資産	31,874	29,850	△2,023
負債	18,390	16,415	△1,974
資本（純資産）	13,484	13,435	△48
親会社所有者帰属持分（自己資本）	12,409	12,348	△60

(ご参考)財務指標

有利子負債 (ネット有利子負債)	4,055 (△462)	4,092 (△1,596)	36 (△1,134)
D/Eレシオ	0.33倍	0.33倍	-
自己資本比率	38.9%	41.4%	2.5%

2. 2020年度 連結業績予想

外部環境
の前提

新型コロナの経済活動への影響は1Qに底をうち、2Q・3Qと徐々に回復に向かう
4Qには企業活動が本格的に再開するが年度内の正常化までには至らず

当社業績
への影響
(想定)

エンタープライズ 産業・流通	上期はICT投資の抑制・延伸により受注が停滞、下期以降の正常化期待するが、 完全な回復は次年度以降
ファイナンス&リテール 金融・小売	無人化・非接触などのニューノーマル需要が期待されるが、上期受注は停滞 金融は下期に向けて回復も、小売の回復基調は緩やか
JAPAN 地方自治体・ヘルスケア	上期は緊急対策への対応、下期はニューノーマル需要も含め回復基調 ヘルスケアは業界への影響も大きく、今後の見通しは不透明
公共・社会インフラ 官公庁・社会基盤	トータルでは影響は小さいとの見込み。行政デジタル化、5Gなどの進展に期待
海外	国や地域の違いはあるが厳格なロックダウンによる影響が大きい 年度内の回復は厳しい見込み

※当社のビジネスは長期にわたる大規模プロジェクトもあることから業績影響は遅れて出る傾向があります。

(単位：億円)

	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	前年度比	増減率(%)	コロナ 影響
売上収益	38,577	36,100	△2,477	△6.4	△1,100
営業利益 (営業利益率)	2,114 (5.5%)	2,120 (5.9%)	5 (0.4%)	0.2	△380
当期利益 (親会社所有者帰属)	1,600	1,600	-	-	

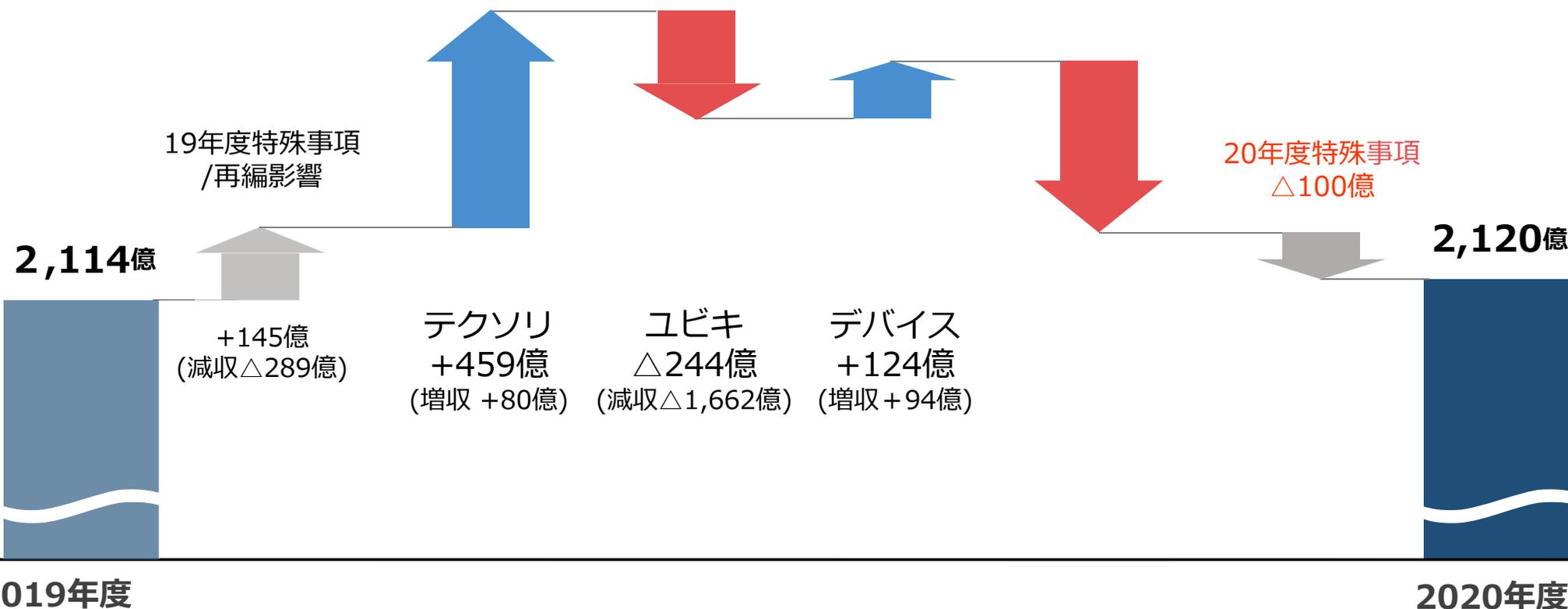
為替レート

米ドル/円	109	105	△4	△3.7
ユーロ/円	121	120	△1	△0.8
英ポンド/円	138	140	2	1.4
ユーロ/米ドル	1.11	1.10	△0.01	△0.9

海外売上比率	31.8%	31.8%	-
--------	-------	-------	---

営業利益の前年比の変動内訳 (2019年度→2020年度)

-----		コロナ影響除く	-----		コロナ影響	増減率
売上	△1,088億		売上	△1,100億		(△3%)
損益	+339億		損益	△380億		



売上収益

・コロナ除く本業				
テクノロジーソリューション	+	80億	…	5G基地局の所要増等により増収
ユビキタスソリューション他	△	1,169億	…	ユビキタスの前年特需の反動減
・コロナ影響	△	1,100億	…	テクノロジーソリューション中心に影響が生じる
・再編影響	△	289億	…	デバイス事業の再編により連結対象外となった売上

営業利益

前年並み

・本業				
テクノロジーソリューション	+	59億	…	コロナの影響を受けるも、採算性改善、費用の効率化により増益
ユビキタスソリューション他	△	100億	…	ユビキタスの前年特需の反動減中心に減益
・再編影響	+	8億	…	デバイス事業の再編により連結対象外となった利益
・特殊事項	+	37億	…	①2019年度の特殊事項がなくなる影響 + 137億
			…	②2020年度のビジネスモデル変革費用 △ 100億

当期利益

前年並み

■新型コロナウイルスの影響：売上 △ 1,100億 / 損益 △ 380億

- ・コロナウィルスの影響は、売上/売上総利益に対する影響のみ
- ・営業費用については、テレワークを推進していた経緯もあり、通常増減との切り分けが困難なため含めておりません

●マイナス影響：売上 △ 1,780億 / 損益 △ 600億

・ICT投資予算の延期、規模縮小

- 日本：製造、流通、ヘルスケア向けで大きな影響
⇒4Qからの回復を見込むが、本格回復は次年度以降
- 海外：厳格なロックダウンの影響を大きく受ける
⇒年度内は厳しい状況が継続、回復は次年度以降

・商談活動の停滞

- 中堅、小規模むけ顧客に対する商談活動が停滞
⇒2Qから徐々に回復、下期以降は正常化を想定

●プラス影響：売上 +680億 / 損益 +220億

・新たなデマンドへの対応

- リモート関連（テレワーク他）商談
デジタル化、非接触、無人化へ対応したソリューション

・政府、自治体の緊急対策、行政のデジタル化加速

・前年4Qの延伸については挽回

社会のあり方の変化にともなう新しいデマンドと働き方

ニューノーマル時代のビジネス創出（デジタル化、リモート化、無人化、非接触化）

エンタープライズ 産業・流通	ファイナンス&リテール 金融・小売	JAPAN 地方自治体・ヘルスケア	公共・社会インフラ 官公庁・社会基盤
<ul style="list-style-type: none">・ テレワーク・ スマートファクトリー・ SCMの再構築	<ul style="list-style-type: none">・ 営業のオンライン化・ 業務の非接触化・ キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none">・ オンライン授業・ 電子カルテ・ 遠隔オンライン診療	<ul style="list-style-type: none">・ 行政デジタル化・ 社会インフラ課題解決・ セキュリティ

新しい社会に信頼をもたらし、より持続可能な世界の実現に貢献

新しい環境でも高い生産性とイノベーションの創造ができる働き方（Work Life Shift）

Smart Working (最適な働き方の実現)	Borderless Office (オフィスのあり方の見直し)	Culture Change (社内カルチャーの変革)
-------------------------------------	--	---------------------------------------

(単位：億円)

		2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	前年度比	コロナ影響		コロナ影響を除く前年比の増減
					コロナ影響 除く	コロナ影響	
テクノロジー ソリューション	売上収益	32,129	30,900	△1,229	80	△1,310	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売上収益 ⊕ 5G基地局所要増 ⊖ 海外の撤退ビジネスの減収影響 ・ 営業利益 ⊕ ソリューション・サービスの採算性改善 ⊕ システムプラットフォームの増収効果 ⊕ 営業費用の効率化
	本業	1,920	1,980	59	459	△400	
	(%)	(6.0%)	(6.4%)	(0.4%)			
	特殊/再編	△40	△100	△59	△59	-	
	営業利益	1,879	1,880	-	400	△400	
ユビキタス ソリューション	売上収益	4,552	3,190	△1,362	△1,662	300	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売上収益 ⊖ 前年のWindows7関連特需の反動減 ・ 営業利益 ⊖ 減収影響により減益
	本業	264	80	△184	△244	60	
	(%)	(5.8%)	(2.5%)	(△3.3%)			
	特殊/再編	3	-	△3	△3	-	
	営業利益	267	80	△187	△247	60	

2.2020年度 連結業績予想

事業別セグメント情報



(単位：億円)

		2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	前年度比	コロナ影響		コロナ影響を除く前年比の増減
					除く		
デバイス ソリューション	売上収益	3,084	2,800	△284	△194	△90	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売上収益 ⊖事業再編の影響 △289億 ⊕電子部品の所要増 ・ 営業利益 ⊕電子部品の増収効果に加え採算性改善
	本業	75	160	84	124	△40	
	(%)	(2.5%)	(5.7%)	(3.2%)			
	特殊/再編	△108	-	108	108	-	
	営業利益	△32	160	192	232	△40	
全社消去	売上収益	△1,188	△790	398	398	-	
連結計	売上収益	38,577	36,100	△2,477	△1,377	△1,100	
	本業	2,260	2,220	△40	339	△380	
	(%)	(5.9%)	(6.1%)	(0.2%)			
	特殊/再編	△145	△100	45	45	-	
	営業利益	2,114	2,120	5	385	△380	

フリー・キャッシュ・フロー

(単位：億円)

	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)
フリー・キャッシュ・フロー	2,330	1,700

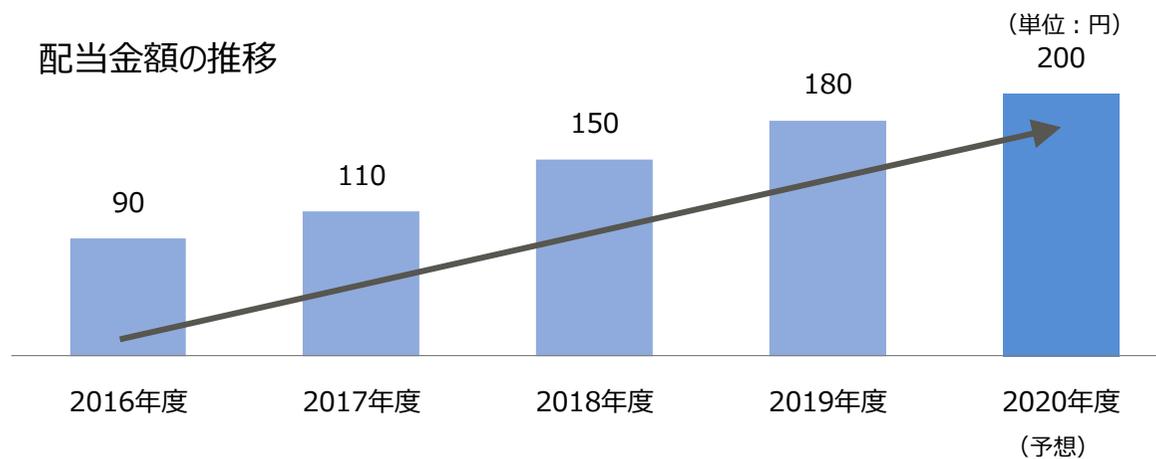
- ・ 2019年度 ワンショットの収入（半導体三重工場他） 約 600億

配当

(単位：円)

	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	前年度比
中間	80	100	20
期末	100	100	-
年間	180	200	20

配当金額の推移

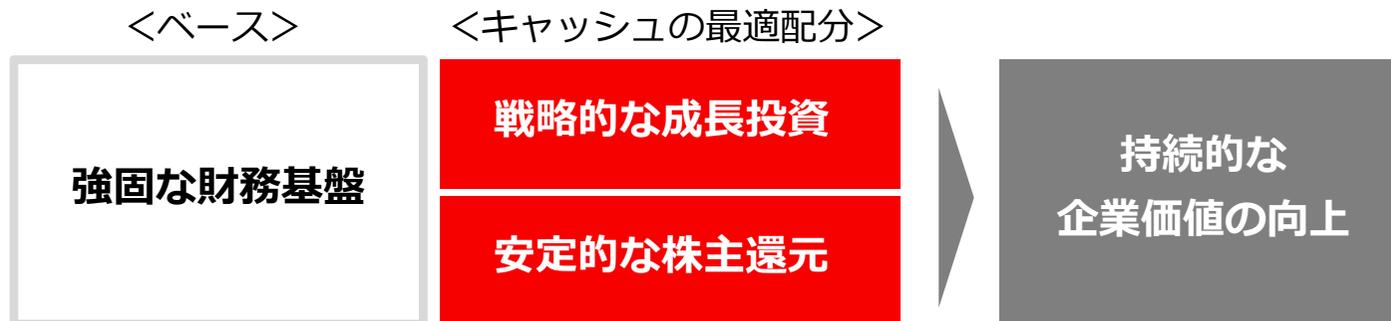


3. キャピタルアロケーションポリシー

I. 財務戦略の方向性

強固な財務基盤をベースにキャッシュを最適配分し
持続的な企業価値の向上につなげる

<p>ベース</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会インフラを支える企業のひとつとして相応しい強固な財務基盤 [短期的な事業環境の変化にも十分に耐えうるサステナビリティ]
<p>方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の成長と資本効率の向上につながる戦略的な成長投資 ■ 事業と利益の成長ステージに見合った安定的かつ持続的な株主還元の上



II. キャピタルアロケーションポリシー

3. キャピタル
アロケーションポリシー

今後5年間
(FY20-24)

- (1) キャッシュフロー：今後5年間で1兆円超のFCFを創出
- (2) アロケーション：キャッシュを成長投資と株主還元最適配分

(1) キャッシュフローの安定的な創出

(2) アロケーションの考え方



1兆円超

強固な財務基盤

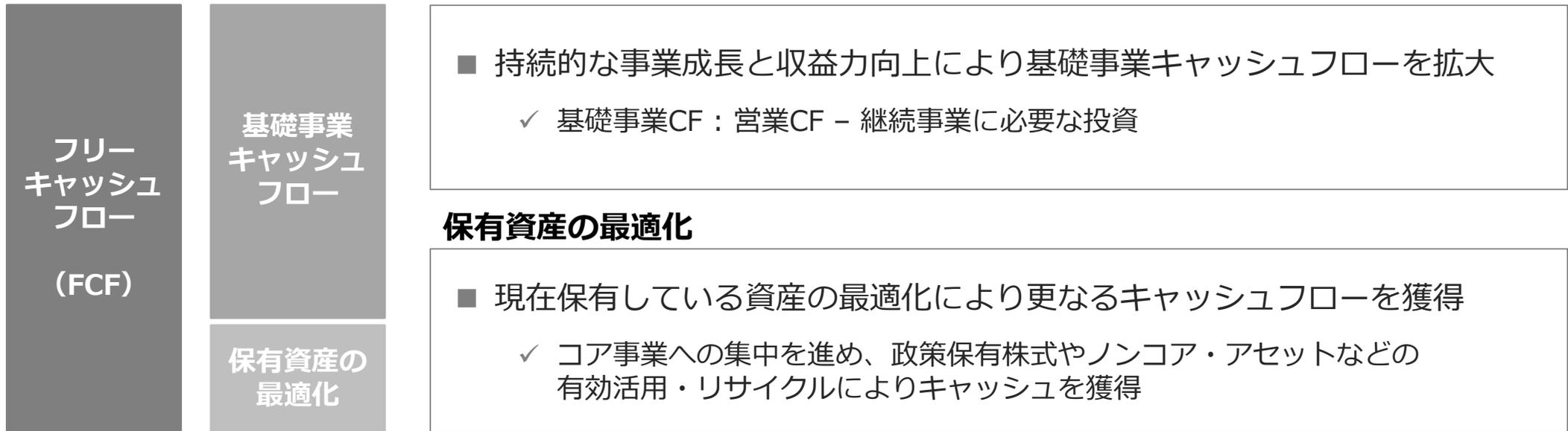
当面は追加キャッシュ
を見込まず

戦略的な
成長投資

安定した
株主還元

(1) キャッシュフローの安定的な創出

事業成長によるキャッシュフロー創出に加え、保有資産の最適化を進める
今後5年間(FY20~24) で1兆円を超えるフリーキャッシュフローを創出



(2) アロケーションの考え方

強固な財務基盤の確保

現在、手元流動性や自己資本など一定の健全性を確保
 今後、更なる改善は資本効率の向上などで進めていく
 (当面、追加的なキャッシュは見込まないが、資金環境には十分留意)



FY19 (実績)	現金及び現金同等物	4,518億円
	手元流動性	1.41か月

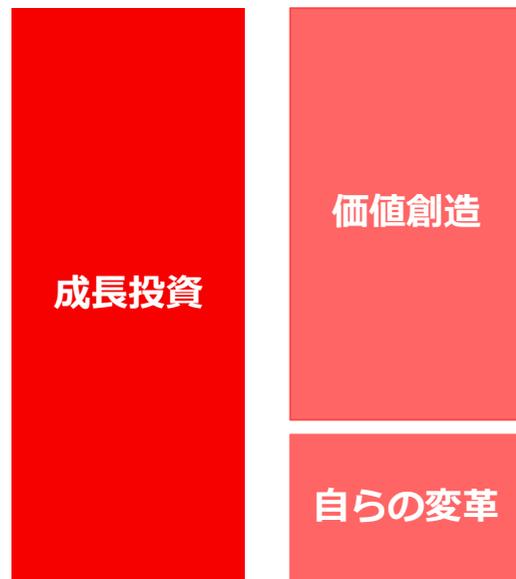


FY19 (実績)	自己資本	12,409億円
	自己資本比率	38.9%

(2) アロケーションの考え方

戦略的な成長投資の実行

お客様・社会への提供価値の創造と富士通自身のDX企業への変革のため
必要な投資を積極的に遂行(5年間で5,000~6,000億円)



価値創造のための投資

- サービス・オフアリング投資
 - テクノロジー開発
 - ソリューション開発
 - ビジネス効率化
- M&A、有力パートナーとのアライアンス、ベンチャーへの投資
- 将来を見据えた戦略的なDXビジネスへの投資

自らの変革のための投資

- 高度人材（コンサルティング、サービス）の獲得
- 内部強化（リスキリング、社内システム）

(2) アロケーションの考え方

3. キャピタル アロケーションポリシー

■ 安定的な株主還元の実施

事業と利益の成長ステージに見合った中長期に安定した株主還元

配当

- 持続的な事業の成長に基づき安定的な配当の実施

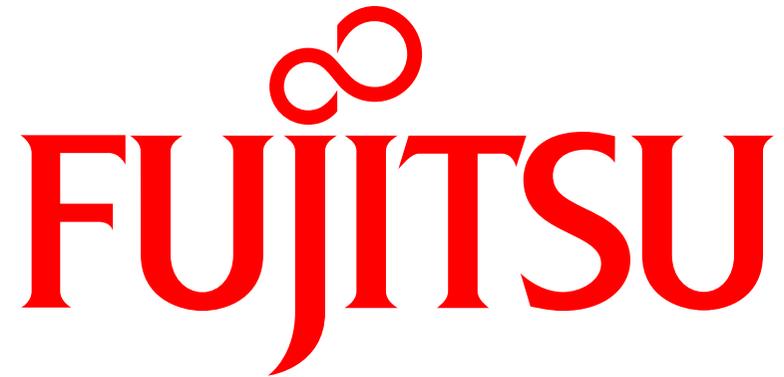
自社株買い

- 長期間留保された余剰資金を原資に機動的な自社株買い
(資金需要の動きに留意しながら対応)

配当金額の推移 (円)



- キャッシュの最適配分により事業の成長、収益性及び資本効率の向上を図る
- 資本効率の観点ではEPSを重視、今後はEPSの持続的な成長を図っていく



shaping tomorrow with you

免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- 主要市場における景気動向(特に日本、欧州、北米、オセアニア、中国を含むアジア)
- 為替動向、金利変動
- 資本市場の動向
- 価格競争の激化
- 技術開発競争による市場ポジションの変化
- 部品調達環境の変化
- 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- 公的規制、政策、税務に関するリスク
- 製品、サービスの欠陥や瑕疵に関するリスク
- 不採算プロジェクト発生の可能性
- 研究開発投資、設備投資、事業買収・事業再編等に関するリスク
- 自然災害や突発的事象発生のリスク
- 会計方針の変更

補足資料

事業別セグメント情報(四半期別損益推移)



(単位：億円)

		2019年度 (実績)				2020年度 (実績)
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
テクノロジー ソリューション	売上収益	6,771	8,071	7,700	9,585	6,791
	営業利益	75	562	409	831	126
ソリューション・ サービス	売上収益	3,887	4,834	4,444	5,663	3,768
	営業利益	180	434	384	795	178
システム プラットフォーム	売上収益	1,223	1,664	1,410	2,172	1,517
	営業利益	△64	163	48	127	50
海外リージョン	売上収益	1,862	1,824	2,032	1,943	1,710
	営業利益	△5	34	△12	22	△37
共通	売上収益	△202	△252	△188	△192	△205
	営業利益	△35	△69	△11	△113	△64
ユビキタス ソリューション	売上収益	1,029	1,384	1,114	1,024	738
	営業利益	35	104	88	39	42
デバイス ソリューション	売上収益	834	852	715	682	683
	営業利益	△77	9	6	29	53
全社消去	売上収益	△247	△408	△298	△234	△185
連結計	売上収益	8,387	9,900	9,232	11,057	8,027
	営業利益	33	676	504	900	222

事業別セグメント情報(国内海外売上高)



(単位：億円)

		2019年度1Q (実績)	2020年度1Q (実績)	前年同期比	増減率(%)
テクノロジー ソリューション	売上収益	6,771	6,791	19	0.3
	国内	4,568	4,827	258	5.7
	海外	2,202	1,964	△238	△10.8
ソリューション・ サービス	売上収益	3,887	3,768	△119	△3.1
	国内	3,789	3,703	△86	△2.3
	海外	98	65	△33	△33.6
システム プラットフォーム	売上収益	1,223	1,517	294	24.0
	国内	935	1,280	344	36.9
	海外	287	237	△50	△17.7
海外リージョン	売上収益	1,862	1,710	△152	△8.2
	国内	3	1	△1	△59.2
	海外	1,859	1,709	△150	△8.1
共通	売上収益	△202	△205	△2	-
ユビキタス ソリューション	売上収益	1,029	738	△290	△28.2
	国内	664	470	△194	△29.2
	海外	364	268	△96	△26.4
デバイス ソリューション	売上収益	834	683	△150	△18.1
	国内	331	166	△165	△49.8
	海外	502	516	14	2.9
全社消去	売上収益	△247	△185	61	-
連結計	売上収益	8,387	8,027	△359	△4.3
	国内	5,337	5,298	△38	△0.7
	海外	3,049	2,728	△320	△10.5

海外売上比率 36.4% 34.0% △2.4%

海外リージョンの内訳

(単位：億円)

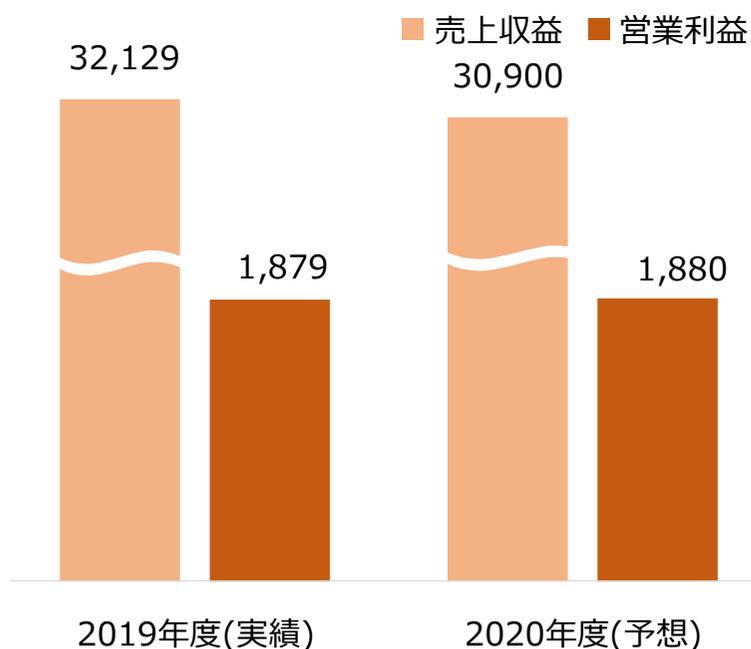
		2019年度1Q (実績)	2020年度1Q (実績)	前年同期比
海外リージョン	売上収益	1,862	1,710	△152
	営業利益	△5	△37	△32
NWE (北欧・西欧)	売上収益	860	784	△76
	営業利益	△6	△27	△20
CEE (中欧・東欧)	売上収益	396	409	13
	営業利益	14	△3	△18
Americas	売上収益	175	146	△28
	営業利益	△17	△13	4
Asia	売上収益	203	167	△35
	営業利益	-	2	1
Oceania	売上収益	194	195	1
	営業利益	1	3	2
その他/消去	売上収益	33	6	△27
	営業利益	2	-	△2

(注)1.売上収益には、地域間の内部売上収益を含みます

テクノロジーソリューション

(単位：億円)

[売上収益及び営業利益] (単位：億円)



テクノロジーソリューション	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	前年度比	
			増減率(%)	
売上収益	32,129	30,900	[△1,310] △1,229	△3.8
営業利益 (営業利益率)	1,879 (5.8%)	1,880 (6.1%)	[△400] -	- (0.3%)

[]内は新型コロナウイルスの影響

(単位：億円)

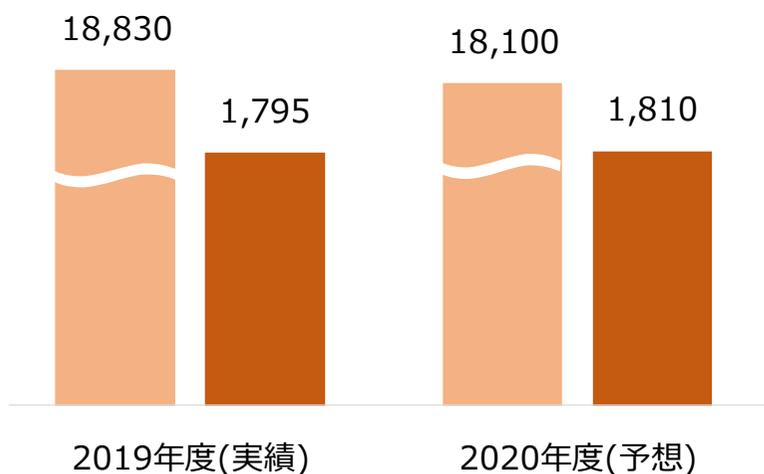
	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	コロナ影響	
			コロナ影響	コロナ影響除く
売上収益	32,129	30,900	△1,310	32,210
営業利益 (営業利益率)	1,879 (5.8%)	1,880 (6.1%)	△400	2,280 (7.1%)

テクノロジーソリューション (ソリューション・サービス)

(単位：億円)

[売上収益及び営業利益] (単位：億円)

■ 売上収益 ■ 営業利益



ソリューション・サービス	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	前年度比		増減率(%)
			[△780]	△730	
売上収益	18,830	18,100	[△780]	△730	△3.9
営業利益 (営業利益率)	1,795 (9.5%)	1,810 (10.0%)	[△280]	14 (0.5%)	0.8

[]内は新型コロナウイルスの影響

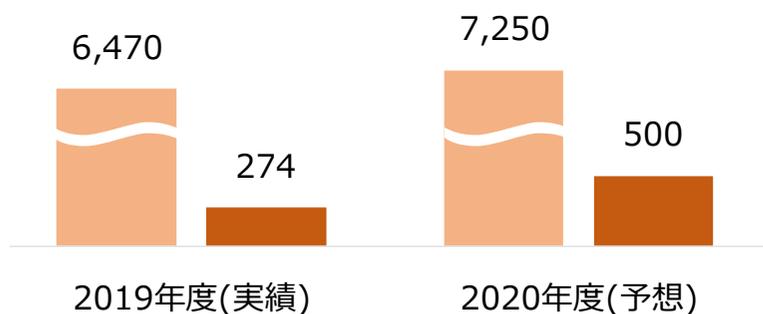
■ コロナによる減収影響を大きく受けるも、採算性改善、営業費用の効率化を進め増益

テクノロジーソリューション (システムプラットフォーム)

(単位：億円)

[売上収益及び営業利益] (単位：億円)

■ 売上収益 ■ 営業利益



システム プラットフォーム	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	前年度比		
			増減率(%)		
売上収益	6,470	7,250	[△100]	779	12.0
システムプロダクト	4,401	4,850	[△210]	448	10.2
ネットワーク プロダクト	2,068	2,400	[110]	331	16.0
営業利益 (営業利益率)	274 (4.2%)	500 (6.9%)	[△10]	225 (2.7%)	81.9

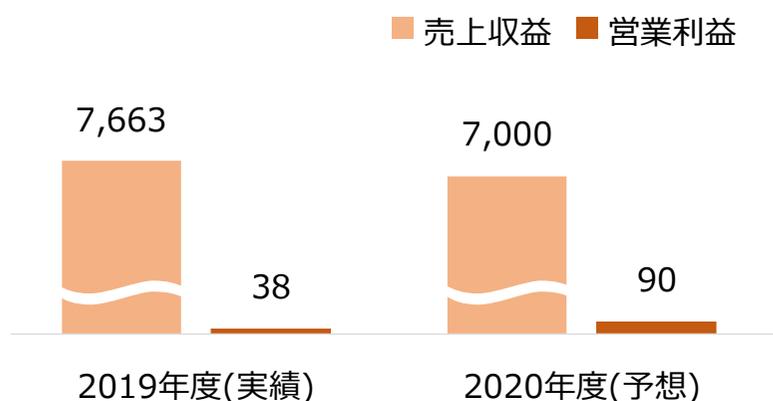
[]内は新型コロナウイルスの影響

- 5G基地局の所要増に加え、営業費用の効率化を進め増益

テクノロジーソリューション (海外リージョン)

(単位：億円)

[売上収益及び営業利益] (単位：億円)



海外リージョン	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	前年度比		増減率(%)
			[△390]	△663	
売上収益	7,663	7,000	[△390]	△663	△8.7
営業利益	38	90	[△90]	51	131.8
(営業利益率)	(0.5%)	(1.3%)		(0.8%)	

[]内は新型コロナウイルスの影響

- 売上は、コロナの影響と、撤退ビジネスの影響により減収
コロナの影響を大きく受けるも、ビジネスモデル変革費用の負担減と、採算性改善、費用効率化を進め増益。

テクノロジーソリューション (共通)

(単位：億円)

共通	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	前年度比
本業	△326	△420	[△20] △93
特殊事項	96	△100	△196
営業利益	△229	△520	[△20] △290

[]内は新型コロナウイルスの影響

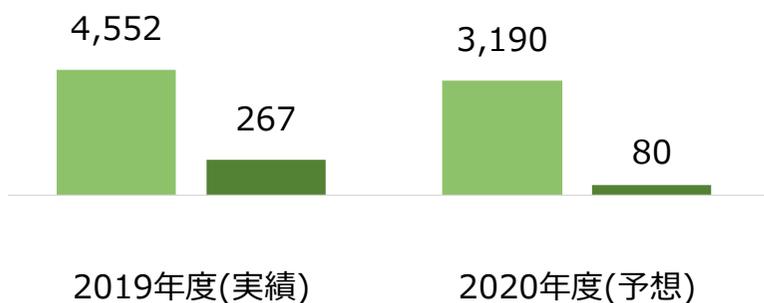
■ 社内DX実現に向けた投資の負担増

ユビキタスソリューション

(単位：億円)

[売上収益及び営業利益] (単位：億円)

■ 売上収益 ■ 営業利益



ユビキタスソリューション	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	前年度比	
			増減率(%)	
売上収益	4,552	3,190	[300] △1,362	△29.9
営業利益	267	80	[60] △187	△70.1
(営業利益率)	(5.9%)	(2.5%)	(△3.4%)	

[]内は新型コロナウイルスの影響

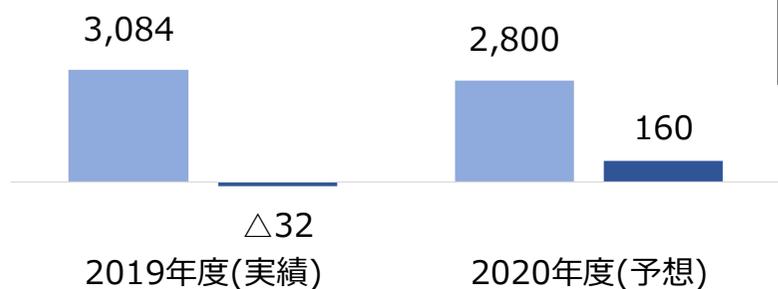
■ 前年度Windows7の買替特需の反動により減益

デバイスソリューション

(単位：億円)

[売上収益及び営業利益] (単位：億円)

■ 売上収益 ■ 営業利益



デバイスソリューション	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)	前年度比		増減率(%)
			[△90]	△284	
売上収益	3,084	2,800	[△90]	△284	△9.2
営業利益	△32	160	[△40]	192	-
(営業利益率)	(△1.1%)	(5.7%)		(6.8%)	

[]内は新型コロナウイルスの影響

- 電子部品の所要回復と、採算性改善に加え、前年のビジネスモデル変革費用の負担減により増益。

連結業績予想の前提条件等

①為替レート（平均）・為替感応度

	2019年度 (実績)	2020年度		為替感応度 2Q/3Q/4Q (予想)※
		1Q (実績)	2Q/3Q/4Q (予想)	
米ドル/円	109	108	105	△1 億円
ユーロ/円	121	118	120	1 億円
英ポンド/円	138	134	140	0 億円
ユーロ/米ドル	1.11	1.10	1.10	△11 億円

※対円レートは1円の為替変動(円安)による営業利益への影響額(概算)

ユーロ/米ドルは0.01米ドルの為替変動(ユーロ安)による営業利益への影響額(概算)

連結業績予想の前提条件等

②設備投資・減価償却費（有形固定資産）

(単位：億円)

	1Q		通期	
	2019年度 (実績)	2020年度 (実績)	2019年度 (実績)	2020年度 (予想)
テクノロジーソリューション	131	96	538	670
ユビキタスソリューション	0	0	2	5
デバイスソリューション	150	78	424	425
設備投資	282	175	964	1,100
減価償却費	229	175	845	900

設備投資、減価償却費にはIFRS16号（リース）適用の影響を含んでおりません

③研究開発費

研究開発費	308	277	1,233	1,200
(売上収益比)	(3.7%)	(3.5%)	(3.2%)	(3.3%)